

III International Lounge

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 袴田, 麻里, 小林, 静乃 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029356

Ⅲ 国際交流ラウンジ

熊井 浩子／袴田 麻里／小林 静乃*

*国際交流課副課長（当時）

以前から続いていた留学生支援ボランティアや令和元年度後期に留学生と一般学生の交流や留学プロモートの場としてオープンした国際交流ラウンジを、令和2年度より日本人学生・留学生が対等な立場でより主体的・双方向的な活動を行う場として発展させていきたいと考えていたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響でほとんど活動できない状態となってしまう、ボランティアの新規募集も行われなかった。

浜松キャンパスでも、新入生ガイダンスの縮小によりボランティア募集の呼びかけができず、また来校自体ができない時期が続いたため、留学生歓迎会や交流会が実施できなかった。そのため、在學生も令和2年度入學生もボランティア継続、応募する學生が極端に少なくなった。

このように活動がままならない状況下で、令和3年4月にこれまでの「留学生支援ボランティア」と「国際交流ラウンジボランティア」を一本化するとともに、グローバル・アジア特別教育プログラム登録者、スチューデントアンバサダープログラム・グローバルリーダーシッププログラム参加者や留学経験者、国際交流サークル、留学生等、国際交流活動に関心のある両キャンパスの學生に呼びかけて、今後のラウンジの方向について検討するミーティングを行い、以下の方向性を確認した。

【令和3年度の活動案】

[定例]

●English Lounge

英語ネイティブ講師による1回30分の英会話レッスン、各回のテーマに沿ってアットホームな雰囲気の中、会話やディスカッションを楽しむ。オンラインで静岡・浜松をつないで実施。

開催日時：前期：月曜授業・水曜授業のある12:00～13:30

後期：水曜授業・木曜授業のある12:00～13:30

●フリーラウンジ

国際交流ボランティアが中心となった国際交流イベントの実施やピアサポートを行う。

開催日時：前・後期：火曜授業・木曜授業のある14:30～16:00

その後、この話し合いを受けて、スチューデント・アンバサダープログラムを修了した學生達を中心に複数回のミーティングがもたれ、活動を実施した。それぞれのキャンパスの活動は以下の通りである。

静岡キャンパス：

静岡キャンパスの国際交流に関心のある學生が「Minato」というグループを作り、前期

には4月に新入生歓迎イベント（Tea Party）を行い、5月からは様々な交流イベントを企画・実施した。静岡大学生協の協力も得て、生協食堂においても各回テーマを設けたイベントを開催した。

さらに後期にSDGsプロジェクト、バディプロジェクト、海外教育機関との連携プロジェクトのそれぞれのチームに分かれ、地域のこども食堂でのボランティア活動、静岡市国際交流協会主催の「わいわいワールドフェア」への出展など、地域と連携した交流活動を活発に行った。

このように学生主体の活動が充実した一方で、Minatoという1つのグループを中心とした活動になってしまったため、そのグループの計画に左右されてしまうという課題も残った。Minatoも含めた多様な学生の活動を推進するとともに、国際交流課と国際連携推進機構が主体となって進めていく活動もさらに充実させていくことが後期に向けての課題となった。

そこで後期からは、Minatoの活動に加え、国際連携推進機構及び国際課の企画として、Afternoon Chatting（英語のドラマを見ながら英語で語り合う）、留学相談サロン（個別の留学説明会）、バディ交流会（新入留学生と日本人学生との交流）を新たに立ち上げ、国際交流や英語学習、留学に興味を持つ学生の交流の場を提供するなど、機構主導の活動の充実を図った。

浜松キャンパス：

浜松キャンパスでは、国際交流活動に関心のある学生（留学生・日本人学生）が、国際交流ラウンジ運営スタッフとなり、6月から活動を開始した。毎週木曜日12:30～14:00を活動時間として、利用可能な教室等をその都度予約しトークディ（英語でさまざまな話題について話す）、ゲームディ（各国の遊びなどを楽しむ）を交互に18回開催した。通常活動以外に、ボランティア活動をしたいという留学生の希望からNPO法人の協力を得て中田島海岸清掃活動を夏休みに、またクリスマスイベントを年末に実施した。このように、新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、学生主体で交流の機会を多数提供できた。

令和3年度までの課題は活動場所の確保であったが、浜松キャンパスの各部局との2年越しの折衝の末、国際連携推進機構の教員居室や日本語教室と同じ建物に1室を確保することができた。これまでは、場所が固定されていないことにより、認知度を高めることが難しく、また教室等の予約が週によってはできないこともあったが、「国際交流ラウンジ」の常時開室により、令和4年度以降の活動の充実が期待される。

このようにコロナ禍という制約はあったが、令和3年度には学生主体の活動が盛んになり、活動も多様化したことが大きな成果であると言えるだろう。